



Beyond KUSS , 2022 !!



大学への進学

4月も残り1週間程度になりました。体調に問題なく過ごしていますか。

8回生もこれまでの卒業生と同様に、全員が高等教育機関(大学等)への進学を希望しています。昨年12月末に「令和2(2020)年度学校基本調査」公表された際に示された高等教育機関進学率のグラフ(https://www.mext.go.jp/content/20200825-mxt_chousa01-1419591_8.pdf)を次頁に掲載しています。高等教育機関進学率は83.5%、過去最高、大学(学部)進学率も54.4%と過去最高です。同世代の54.4%が4年制大学に進学し、高等教育機関(4年制大学、短期大学、専門学校等)への進学は同世代の83.5%になります。18歳人口は保護者世代(約30年前)と比較すると40%程度減少しています。神戸大学や東京大学などの定員はほぼ同じです。早慶など私立大学の定員は増加しています。確実に受験の様相は変化しています。

ところで、みなさんはなぜ大学への進学をめざしているのでしょうか。進路希望調査では、どの大学、どの学部・学科に進学するかを考えたと思います。しかし、なぜ大学に進学するかを考えることはないのであるのでしょうか。小学校⇒中学校⇒高等学校⇒大学という敷かれたレールを進んでいくだけでは、大学進学の特長はあまりありません。

中等教育学校までの「学び」と大学での「学び」は異なります。中等教育学校までの「学び」は人類がこれまでに蓄積してきた知識を理解することが出発点になります。もちろん知識を覚えるだけでなく、それらを活用することが求められています。大学での「学び」はそのような要素だけでなく、正解のない課題に向けて歩を進めていくことの割合が大きくなっていきます。正解に早くたどり着くことを競争するのが「20世紀型(知識重視型)受験」でした。現在は、従来型の受験に加えて「21世紀型(探究重視型)受験」が増加しつつあります。大学での「学び」は正解のない課題に向けて、主体的にアプローチしていく技能・力(リサーチリテラシー)が求められます。

本校では「〇〇が学びたいから、この大学・学部」と回答する人が多いです。卒業研究(課題研究)に取り組んでいる学校としては、うれしいことです。しかし、気をつけてほしいのは、「〇〇を学ぶ」ことが受動的であれば、大学での「学び」は豊かになりません。大学での「学び」は、正解のない課題に対処していくため、批判的思考力やリサーチリテラシーを十分に身につけ、駆使していくことが大切です。そのような大学での「学び」をスムーズにスタートさせることを目的の一つとして、全員が卒業研究(課題研究)に取り組んでいます。

大学でどのような人たち(教員や学生)と出会い、切磋琢磨し、批判的思考力やリサーチリテラシーを豊かにできるかが大切です。そしてそれらの力を「社会で活躍する力」、「社会を豊かにする力」として活用することがさらに大切です。

大学受験を通じ、「志望力」・「出願力」・「進学力」を高めてほしいです。「進学力」は大学で「学ぶ力」と「学ぶ意欲」です。なぜ大学に進学するかを理解し、意欲的に学ぶ力を高めていきましょう。

<保護者の方々にも読んでいただきましょう>

『Beyond KUSS , 2022 !』の内容について、SNS等webへのアップや無断使用しないようお願いします。

高等教育機関への進学率

省略

<保護者の方々にも読んでいただきましょう>

『Beyond KUSS, 2022!』の内容について、SNS等webへのアップや無断使用しないようお願いします。